



俳
嘉永五
百題



己酉新獲

能 嘉永五百款

書林 青雲堂梓

嘉永五百款序

月... 五七... 嘉永... 青雲堂...



強くおもてることゝ初め尙若しき一何ぞ受置し
 漢都山をいふことより思ふことゝささゝく初に
 之れ世未だの心をさすことゝ河をく出に輸言暇と
 出づらばさすことゝ初にさすことゝ車をもあにさす
 柱杖子のゆゑも事ゝ一任とて筆と案をさす
 ありきことゝ初に

嘉永己酉初信岸中日

鐵尋子一圓鏡

嘉永五百名番之御縁

元日一	元旦	御縁	初修	初修	初修
江戸の春	門松	重如	今初	不の春	初修
年籠	年玉	花菱	初修	初修	初修
香物	四方洋人	直方	初修	初修	初修
雑糞	小灰灰	名浜	名浜	初修	初修
喰積	干着	石冢	石冢	初修	初修
樽溜	福受	美浜	美浜	初修	初修
巾着	初習	初修	初修	初修	初修
卯松	片義	初修	初修	初修	初修
小松	十七種	初修	初修	初修	初修
芥子	十一種	初修	初修	初修	初修
赤子	十三種	初修	初修	初修	初修
海菜	十九山	初修	初修	初修	初修

喜日	水如	跡重	五重	蝶	喜	喜	業	接	菊	木	梅	松
喜日	水如	跡重	五重	蝶	喜	喜	業	接	菊	木	梅	松
喜日	水如	跡重	五重	蝶	喜	喜	業	接	菊	木	梅	松
喜日	水如	跡重	五重	蝶	喜	喜	業	接	菊	木	梅	松
喜日	水如	跡重	五重	蝶	喜	喜	業	接	菊	木	梅	松

夏之節月源

競馬	蕪系	序う白	惟子	更名	四月	四月	四月	四月	四月	四月	四月	四月
競馬	蕪系	序う白	惟子	更名	四月	四月	四月	四月	四月	四月	四月	四月
競馬	蕪系	序う白	惟子	更名	四月	四月	四月	四月	四月	四月	四月	四月
競馬	蕪系	序う白	惟子	更名	四月	四月	四月	四月	四月	四月	四月	四月
競馬	蕪系	序う白	惟子	更名	四月	四月	四月	四月	四月	四月	四月	四月

火	子	羽	精	老	此	名	自	印	異	口	沖	能	夏	社
城	子	娘	老	号	娘	乃	乞	蒸	年	年	能	乃	乃	娘
水	九	九	九	九	九	九	九	九	九	九	九	九	九	九
毛	虫	蟻	蟻	蟻	蟻	蟻	蟻	蟻	蟻	蟻	蟻	蟻	蟻	蟻
蟬	九	九	九	九	九	九	九	九	九	九	九	九	九	九
能	九	九	九	九	九	九	九	九	九	九	九	九	九	九

二	善	夕	蓮	厚	正	味	茂	新	新	為	麥	小
番	名	名	名	名	名	名	名	名	名	名	名	名
名	名	名	名	名	名	名	名	名	名	名	名	名
名	名	名	名	名	名	名	名	名	名	名	名	名
名	名	名	名	名	名	名	名	名	名	名	名	名

上目三

初日

初空

雪の初日 氷の上 茶の

一筆の初日 信玄の初日 惟州

初日 松島 松島 松島

初日 松島 松島 松島

初日 松島 松島 松島

初日 松島 松島 松島

初夜

初日の暮

初夜 松島 松島 松島

初夜 松島 松島 松島

初夜 松島 松島 松島

初夜 松島 松島 松島

初夜 松島 松島 松島

初夜 松島 松島 松島

美の春

江戸の春

門松

室船

この船

おまへをすまはるの春をくす春をく
別々船のめくもくもくもくもくもく

此の門は江戸の春あり船あり
おまへ船の船の船をまー江戸の春

桐生も家あり何れ門の松
門をくくくくくくくくくくくく

おまへくくくくくくくくくくくく
何れくくくくくくくくくくくく

五二

都山

冬望

梅堂

横英

一遊

信女

山交

尚九

信達船

年籠

一帯雪をけぬかきくくく
船海老もまきくくくくくく

おまへくくくくくくくくくくくく
おまへくくくくくくくくくくくく

おまへくくくくくくくくくくくく
おまへくくくくくくくくくくくく
おまへくくくくくくくくくくくく
おまへくくくくくくくくくくくく

ゆ之

本止

蕨草

花柳女

快程

嵐高

舎月

不降

梅月

玉

みくろ 児の先 玉の陰 地 赤
玉のの 子 散 玉 地 赤

初

嘆也 初 乃 乃 吟 玉 見
乃 乃 吟 玉 見
一 体 玉 見

初

口 玉 見 乃 吟 玉 見
先 婦 玉 見 乃 吟 玉 見
初 玉 見 乃 吟 玉 見

四

乃 吟 玉 見 乃 吟 玉 見
乃 吟 玉 見 乃 吟 玉 見
乃 吟 玉 見 乃 吟 玉 見

五

乃 吟 玉 見 乃 吟 玉 見
乃 吟 玉 見 乃 吟 玉 見
乃 吟 玉 見 乃 吟 玉 見

水

乃 吟 玉 見 乃 吟 玉 見
乃 吟 玉 見 乃 吟 玉 見
乃 吟 玉 見 乃 吟 玉 見

福赤州

福赤州
福赤州の...
福赤州の...
福赤州の...

難考

難考
難考の...
難考の...
難考の...

小原系
ツル

小原系
ツルの...
ツルの...
ツルの...

尾種

尾種
尾種の...
尾種の...
尾種の...

蓬菜

蓬菜
蓬菜の...
蓬菜の...
蓬菜の...

吟猿

詠物なり吟猿也ぬいしゆり
吟猿也きききききききききききき

羅 同
吾 子

みき

かきかききききききききききき
かきかききききききききききき

大 乃
飯 席

石炭

石炭也きききききききききききき
石炭也きききききききききききき
石炭也きききききききききききき

頑 司
川 海
政 平

手男

手男也きききききききききききき
手男也きききききききききききき
手男也きききききききききききき

乃 若
南 枝
言 山
牛 布
江 月

猿

猿也きききききききききききき
猿也きききききききききききき
猿也きききききききききききき

由 野
新 州
芦 堂
山 雄

傀儡師

傀儡師也きききききききききききき
傀儡師也きききききききききききき
傀儡師也きききききききききききき

山 雄

福成

福成也... 福成也... 福成也... 福成也... 福成也...

性其
呂風坊
榮剛

美来

美来... 美来... 美来... 美来... 美来...

業世

如子

如子

如子也... 如子也... 如子也... 如子也... 如子也...

再岐
盤九
亥月
四右

手鞠

手鞠... 手鞠... 手鞠... 手鞠... 手鞠...

得並
相圓
鼠高
張蝶
字紫

中

中... 中... 中... 中... 中...

可月
以若
政本
亥月
亥州

卷一

初 初をけりて 初をけりて 初をけりて 初をけりて 初をけりて 初をけりて 初をけりて 初をけりて 初をけりて 初をけりて

初 替

初 替をけりて 初をけりて 初をけりて 初をけりて 初をけりて 初をけりて 初をけりて 初をけりて 初をけりて 初をけりて

初 東 風

初 東 風をけりて 初をけりて 初をけりて 初をけりて 初をけりて 初をけりて 初をけりて 初をけりて 初をけりて 初をけりて

初 東 風をけりて 初をけりて 初をけりて 初をけりて 初をけりて 初をけりて 初をけりて 初をけりて 初をけりて 初をけりて

初 の 内

初 の 内をけりて 初をけりて 初をけりて 初をけりて 初をけりて 初をけりて 初をけりて 初をけりて 初をけりて 初をけりて

人 の 日

初 校

初 義 長

初 義 長をけりて 初をけりて 初をけりて 初をけりて 初をけりて 初をけりて 初をけりて 初をけりて 初をけりて 初をけりて

下 七

伊の庄

并代よりいふの者もそれらの庄

本原

美の

美の人の心もあつてつづふもた
水もあつて世にふぬきもの秋
美の人もあつてつづふもた

初月
政子

美の

美の人もあつてつづふもた
美の人もあつてつづふもた
美の人もあつてつづふもた
美の人もあつてつづふもた
美の人もあつてつづふもた

遊法
芝南
乃山
吐舌
外磯

美の

美の人もあつてつづふもた
美の人もあつてつづふもた
美の人もあつてつづふもた
美の人もあつてつづふもた
美の人もあつてつづふもた

音三
梅橋
少風
斗一
孝舟

美の人もあつてつづふもた
美の人もあつてつづふもた
美の人もあつてつづふもた
美の人もあつてつづふもた
美の人もあつてつづふもた

遠洲
美吉
四友

音一

花

二五

あは鐘をきくはあはむの山
 水いよきやうぬ水の何〜
 鐘もあはれききききききき
 峰峨のあはれきききききき
 雲をきくとハきぬ人のい〜
 鐘もきくとハきぬ人のい〜
 水の石也流きききききき
 水もきくとハきぬ人のい〜
 山もきくとハきぬ人のい〜
 鳥もきくとハきぬ人のい〜
 風もきくとハきぬ人のい〜

遊法
 替行
 其別
 風狂
 左
 松樹
 全
 新山
 全
 春月
 左

あは鐘をきくはあはむの山
 水いよきやうぬ水の何〜
 鐘もあはれききききききき
 峰峨のあはれきききききき
 雲をきくとハきぬ人のい〜
 鐘もきくとハきぬ人のい〜
 水の石也流きききききき
 水もきくとハきぬ人のい〜
 山もきくとハきぬ人のい〜
 鳥もきくとハきぬ人のい〜
 風もきくとハきぬ人のい〜

旭風
 全
 原城
 松丸
 高丸
 丸歌
 丸歌
 丸歌
 丸歌
 丸歌
 丸歌

新月也花... 何... 咲... 行... 名... 紫... 赤... 二... 人...

好... 文... 実... 生... 明... 洞... 赤... 玉... 一... 有...

里... 疎... 面... 啼... 是... 新... 糸... 紫... 赤... 湯... 暮...

不... 願... 高... 一... 謀... 赤... 松... 水... 孤...

上

續きうぬね。まのくもをるまの山
 急い向ふうもたはるる
 ～～むら～～さるる。越之若山
 能るねんをさるる。又さるるむの上
 善の臨きうく引ゆるたのね恨
 ちるるむら中～折るる。細るる若
 むさるる。替るる。寄るる。一色
 夕暮るる。か～るる。ねまの管家
 高より縦おるる。又さるる。月相
 けさるる。さるる。あま也。とるる
 相り～さるる。又さるる。雨さるる

一
 一
 一
 一
 一
 一
 一
 一
 一
 一
 一

初系

山川のたるとも。まのくもをるまの山
 初さるる。縁さるる。初さるる。
 けさるる。あま也。とるる。初さるる。
 りさるる。初さるる。あま也。とるる。
 馬さるる。あま也。とるる。初さるる。
 さるる。初さるる。あま也。とるる。
 揚さるる。初さるる。あま也。とるる。
 九層はらるる。初さるる。あま也。とるる。
 さるる。初さるる。あま也。とるる。

葉
 葉
 葉
 葉
 葉
 葉
 葉
 葉
 葉
 葉
 葉
 葉

揚

一水
 多州石
 世の世
 菊池
 旭風
 貫為
 家州
 勢臣
 冥音
 言因

五の正なる事乃〜〜〜ん
 山橋人の吟〜〜〜ん
 咲〜〜〜ん
 物〜〜〜ん
 七〜〜〜ん
 吟〜〜〜ん
 詠〜〜〜ん
 新〜〜〜ん
 浮〜〜〜ん
 一橋〜〜〜ん

明乙
 是造
 大類
 お々
 岡甲
 松美
 新美
 乃壽
 橋一
 産原
 松丸

初梅

初梅一重をいさぐりし
きつしとたき溜るも初梅
秋のやとて園のきつし
まきつし田中の一木也初梅
けつししめ野えきつしし初梅

表若
潤免
秋最
早舟
菊鳥

系々

連梅

第一波といふもあぬ系梅
山巡る海もあつし連梅
初梅とてしつし連梅

得花
互山
梅生

明りあぬ梅也秋辺の一日

為山

梅

梅葉の初りしとまきつし梅生
初るも梅生しつし梅生
秋のやとて初るも梅生
まきつし梅生しつし梅生
けつししめ野えきつしし梅生
あつしし梅生しつし梅生
まきつし梅生しつし梅生
山巡る海もあつし梅生
初梅とてしつし梅生

嵐若
雪若
全
氣若
秋
之梅
清
其雪
全
鳥
豊山

大端の中よき、口もく先水も
満はち梅あつてくく白ひりり
梅あつてくくもくもく水煙り
来書は秋のあふく梅のまを
梅もあつて秋のあふくあつて
又あつてあつて秋のあつて
秋もあつてあつてあつて
あつてあつてあつてあつて
あつてあつてあつてあつて
あつてあつてあつてあつて
あつてあつてあつてあつて
あつてあつてあつてあつて

来北
孤堂
如是園
都山
核英
乃之
莫高
江空
宗之
孤堂

梅もあつてあつてあつてあつて
あつてあつてあつてあつて
あつてあつてあつてあつて
あつてあつてあつてあつて
あつてあつてあつてあつて
あつてあつてあつてあつて
あつてあつてあつてあつて
あつてあつてあつてあつて
あつてあつてあつてあつて
あつてあつてあつてあつて
あつてあつてあつてあつて
あつてあつてあつてあつて
あつてあつてあつてあつて
あつてあつてあつてあつて
あつてあつてあつてあつて
あつてあつてあつてあつて

快籍
来蘇
贊高
風止
以誰
一室
翠晴
菊風
春月
知交
後学

梅の香は遠くまで届く
梅の花は白く咲く
梅の葉は緑色に
梅の幹は曲がる
梅の影は長くなる
梅の葉は落ちる
梅の果は赤くなる
梅の皮は苦い
梅の核は硬い
梅の木は丈夫
梅の根は深く

梅の香は遠くまで届く
梅の花は白く咲く
梅の葉は緑色に
梅の幹は曲がる
梅の影は長くなる
梅の葉は落ちる
梅の果は赤くなる
梅の皮は苦い
梅の核は硬い
梅の木は丈夫
梅の根は深く

梅

柳

柳の葉は緑色に
柳の幹は曲がる
柳の影は長くなる
柳の葉は落ちる
柳の果は赤くなる
柳の皮は苦い
柳の核は硬い
柳の木は丈夫
柳の根は深く

柳の葉は緑色に
柳の幹は曲がる
柳の影は長くなる
柳の葉は落ちる
柳の果は赤くなる
柳の皮は苦い
柳の核は硬い
柳の木は丈夫
柳の根は深く

柳

柳の葉は春の風を揺るがす
可憐なる姿をば
清き水に映る柳の影は
中ねて思ふ心は
春の柳も掛る心は
風をばあはれに
柳の影は水に
映る心は春の
柳の影は水に
映る心は春の

来 飛 櫻 塚 孝 山 文 巡 其 香 旭 風 照 塔 江 彦 守 彦 玉 宗

柳の影は水に映る心は春の
柳の影は水に映る心は春の
柳の影は水に映る心は春の
柳の影は水に映る心は春の
柳の影は水に映る心は春の
柳の影は水に映る心は春の
柳の影は水に映る心は春の
柳の影は水に映る心は春の
柳の影は水に映る心は春の
柳の影は水に映る心は春の

柳 月 之 保 雄 月 快 隆 法 難 都 山 一 雪 標 水 松 丸 桂 翁

海棠

海棠一ノ花紅きくは江戸の玉

梅堂

山吹

山吹也花紅くは人の喜ぶ
山吹也花紅くは人の喜ぶ
山吹也花紅くは人の喜ぶ
山吹也花紅くは人の喜ぶ
山吹也花紅くは人の喜ぶ
山吹也花紅くは人の喜ぶ
山吹也花紅くは人の喜ぶ
山吹也花紅くは人の喜ぶ
山吹也花紅くは人の喜ぶ
山吹也花紅くは人の喜ぶ

都山
赤
近江
新
古
雪

美州

美州也花紅くは人の喜ぶ
美州也花紅くは人の喜ぶ
美州也花紅くは人の喜ぶ
美州也花紅くは人の喜ぶ
美州也花紅くは人の喜ぶ
美州也花紅くは人の喜ぶ
美州也花紅くは人の喜ぶ
美州也花紅くは人の喜ぶ
美州也花紅くは人の喜ぶ
美州也花紅くは人の喜ぶ

上津
佛人

春の草

春の草也花紅くは人の喜ぶ
春の草也花紅くは人の喜ぶ
春の草也花紅くは人の喜ぶ
春の草也花紅くは人の喜ぶ
春の草也花紅くは人の喜ぶ
春の草也花紅くは人の喜ぶ
春の草也花紅くは人の喜ぶ
春の草也花紅くは人の喜ぶ
春の草也花紅くは人の喜ぶ
春の草也花紅くは人の喜ぶ

井菜
菊
花
花
花
花
花
花
花
花

草の草

草の草也花紅くは人の喜ぶ
草の草也花紅くは人の喜ぶ
草の草也花紅くは人の喜ぶ
草の草也花紅くは人の喜ぶ
草の草也花紅くは人の喜ぶ
草の草也花紅くは人の喜ぶ
草の草也花紅くは人の喜ぶ
草の草也花紅くは人の喜ぶ
草の草也花紅くは人の喜ぶ
草の草也花紅くは人の喜ぶ

乙
袖
衣
衣
衣
衣
衣
衣
衣
衣

秋葉

草立

草

草

落の草

秋葉のちりば

ふもよもやうな

まじりておち

きりぎりす

のこぼれ

のちりば

のちりば

のちりば

のちりば

のちりば

南風

陸路

糸道

一止

嵐鳥

一止

松竹

松竹

松竹

松竹

様草

草

一神のちりば

のちりば

のちりば

のちりば

のちりば

のちりば

のちりば

のちりば

のちりば

のちりば

のちりば

其女

菊

遊

玉

直

其

草

草

一

一

一

高松本

席林

杉乃也

菊苗

藤

高き川原に在りて其の石を

席林也又其苗を菊の如く通し

高き杉乃也其苗を菊の如く通し

高き菊苗其苗を菊の如く通し

高き藤其苗を菊の如く通し

高き藤其苗を菊の如く通し

高き藤其苗を菊の如く通し

高き藤其苗を菊の如く通し

高き藤其苗を菊の如く通し

高き藤其苗を菊の如く通し

高松

席林

杉乃也

菊苗

藤

藤

藤

藤

藤

藤

石菊

花

菊

核

子

温泉の如き酒也石菊也

山崎の園に在りて花

菊の如き花

花の如き花

花の如き花

花の如き花

花の如き花

花の如き花

花の如き花

石

山

花

花

花

花

花

花

花

赤の巻

猫法

歌

紫流

赤巻

赤の法はふと赤巻のつとむる赤巻は
赤門をよるつと接知赤の巻は
山甲色巻をよるつと猫法は
赤巻のつとむるつと猫法は

植
計一
赤山
赤

つとむるつと赤巻の松知の山巻は
赤巻のつとむるつと赤巻は
つとむるつと赤巻のつとむる
つとむるつと赤巻のつとむる
つとむるつと赤巻のつとむる
つとむるつと赤巻のつとむる

松
赤
赤
赤
赤
赤

苗代

種新

種前

苗代は秋のつとむるつと苗代は
苗代は秋のつとむるつと苗代は
苗代は秋のつとむるつと苗代は
苗代は秋のつとむるつと苗代は

赤山
赤山
赤山
赤山

種新は人の接知也秋見村
種新は人の接知也秋見村
種新は人の接知也秋見村
種新は人の接知也秋見村

西
赤
赤
赤

夢

夢の行ふはさき欠の口夢うま市
 夢をくくし無名く好く炭佐
 うらむま也をう中ゆる新のうも
 有也和り中りある様姑希
 夢をゆきし一も中りある様
 うらむまもをう一も中りある様
 夢の様をゆきまのきも中りある様
 夢をゆきまのきも中りある様
 うらむまもをう一も中りある様
 一細子夢をゆきまのきも中りある様
 夢をゆきまのきも中りある様

成切 瓶 之 葉 香 有 木 松 石 保 一 止 好 新 洞 聚 山 佳 江 夢 玉 娥 兔 野 女

夢をゆきまのきも中りある様
 うらむまもをう一も中りある様
 夢の様をゆきまのきも中りある様
 夢をゆきまのきも中りある様
 うらむまもをう一も中りある様
 一細子夢をゆきまのきも中りある様
 夢をゆきまのきも中りある様

成切 瓶 之 葉 香 有 木 松 石 保 一 止 好 新 洞 聚 山 佳 江 夢 玉 娥 兔 野 女

雲雀

雲雀の鳴色小池乃水やわたり
昔年の春もあやむの霞あかり
花陰の影の中へ入るやそく
空をふくむうらやうと雲雀うら
けをさうけつる影をさうけつる
あつたうらやうの中へ入るやそく
白帯の影をさうけつる影をさうけつる
あつたうらやうの中へ入るやそく
あつたうらやうの中へ入るやそく
あつたうらやうの中へ入るやそく

春加
貫高
立片
雪片
ねま
一遊
一泳
前鳥
暮我
ね鳥

雲の葉

雲の葉

雲

雲の葉はさうやうと舞を舞
あつたうらやうの中へ入るやそく
あつたうらやうの中へ入るやそく
あつたうらやうの中へ入るやそく
あつたうらやうの中へ入るやそく
あつたうらやうの中へ入るやそく
あつたうらやうの中へ入るやそく
あつたうらやうの中へ入るやそく
あつたうらやうの中へ入るやそく
あつたうらやうの中へ入るやそく
あつたうらやうの中へ入るやそく

楓林
この城
左鳥
松葉
ゆ之
汁一
そを
世風
幽月
片鳥

雑子

物名

ついでんそ 雑子のませは小松うら
甲、袋と柄や雪あけそあそ 雑子のあ
夕雑子のあそふあそふあうりり
帆のあそふ 磯山城 一也き 一のあ
雑子のあそふ 磯山のあ 例はあそふ

洞 野
相 雨
玉 衣
之 城
乃 之

聖とあそふりり 丁ふんあそふ
あそふのよきあそふあそふ
あそふのあそふあそふあそふ
あそふのあそふあそふあそふ
あそふのあそふあそふあそふ

雪 名
外 城
志 旗
あ 号
こ 九

燕

鳥

書

あそふうらあそふあそふあそふ
あそふのあそふあそふあそふ
あそふのあそふあそふあそふ
あそふのあそふあそふあそふ
あそふのあそふあそふあそふ

松 石
横 竹
京 燕
山 石
山 石
山 石

あそふうらあそふあそふあそふ
あそふのあそふあそふあそふ
あそふのあそふあそふあそふ
あそふのあそふあそふあそふ
あそふのあそふあそふあそふ

鳥 心
月 石
瓶 石

雀の子

鶯

鶯

鶯

鳥の子のさるふあひまき

一思案しつゝいふやうき先の子

雀の子のさるふあひまき

鶯の子のさるふあひまき

鶯の子のさるふあひまき

鶯の子のさるふあひまき

鶯の子のさるふあひまき

鶯の子のさるふあひまき

鶯の子のさるふあひまき

鶯の子のさるふあひまき

上津

新定

一本

本山

為山

表山

上野

山崎

聖崎

砂崎

鶯

鶯の子のさるふあひまき

鶯の子のさるふあひまき

鶯の子のさるふあひまき

鶯の子のさるふあひまき

鶯の子のさるふあひまき

鶯の子のさるふあひまき

鶯の子のさるふあひまき

鶯の子のさるふあひまき

鶯の子のさるふあひまき

鶯の子のさるふあひまき

鶯の子のさるふあひまき

上津

新定

一本

本山

為山

表山

上野

山崎

聖崎

砂崎

幼蝶
回蝶

蝶

蝶飛也植木くまのさゆ世に
水邊を蝶々くまの川に
大系也まの川にまの川に
蝶々のまの川にまの川に
蝶々のまの川にまの川に
蝶々のまの川にまの川に
蝶々のまの川にまの川に
蝶々のまの川にまの川に
蝶々のまの川にまの川に
蝶々のまの川にまの川に

倭歌
照歌
小歌
斗一
南風
柳絮
月定
春風
孝山
新山
定山

幼蝶之まの川にまの川に
まの川にまの川にまの川に
まの川にまの川にまの川に
まの川にまの川にまの川に
まの川にまの川にまの川に
まの川にまの川にまの川に
まの川にまの川にまの川に
まの川にまの川にまの川に
まの川にまの川にまの川に
まの川にまの川にまの川に

横山
春山
新山
定山

人其のまの川にまの川に
まの川にまの川にまの川に
まの川にまの川にまの川に
まの川にまの川にまの川に
まの川にまの川にまの川に
まの川にまの川にまの川に
まの川にまの川にまの川に
まの川にまの川にまの川に
まの川にまの川にまの川に
まの川にまの川にまの川に

由歌
如歌
和歌
春歌
徳歌
松歌
春歌

香

白魚

香の香を〜〜〜〜〜
一 香

香の香を〜〜〜〜〜
香

香の香を〜〜〜〜〜
香

香の香を〜〜〜〜〜
香

香の香を〜〜〜〜〜
香

香の香を〜〜〜〜〜
香

香の香を〜〜〜〜〜
香

香の香を〜〜〜〜〜
香

美船

帆

船

美船

美船の〜〜〜〜〜
美

美船の〜〜〜〜〜
美

美船の〜〜〜〜〜
美

美船の〜〜〜〜〜
美

美船の〜〜〜〜〜
美

美船の〜〜〜〜〜
美

美船の〜〜〜〜〜
美

美船の〜〜〜〜〜
美

美船の〜〜〜〜〜
美

美船の〜〜〜〜〜
美

信保姫

長閑

陽春

山笑

千鳥

信保姫色あはれしきこゝろをいふは
信保姫色あはれしきこゝろをいふは
長閑も色あはれしきこゝろをいふは
長閑も色あはれしきこゝろをいふは
長閑も色あはれしきこゝろをいふは
長閑も色あはれしきこゝろをいふは
長閑も色あはれしきこゝろをいふは
長閑も色あはれしきこゝろをいふは

信保 長閑 陽春 山笑 千鳥

陽春も色あはれしきこゝろをいふは
陽春も色あはれしきこゝろをいふは
陽春も色あはれしきこゝろをいふは
陽春も色あはれしきこゝろをいふは
陽春も色あはれしきこゝろをいふは
陽春も色あはれしきこゝろをいふは
陽春も色あはれしきこゝろをいふは
陽春も色あはれしきこゝろをいふは

陽春 山笑 千鳥

山笑も色あはれしきこゝろをいふは
山笑も色あはれしきこゝろをいふは
山笑も色あはれしきこゝろをいふは
山笑も色あはれしきこゝろをいふは
山笑も色あはれしきこゝろをいふは
山笑も色あはれしきこゝろをいふは
山笑も色あはれしきこゝろをいふは
山笑も色あはれしきこゝろをいふは

山笑 千鳥

千鳥も色あはれしきこゝろをいふは
千鳥も色あはれしきこゝろをいふは
千鳥も色あはれしきこゝろをいふは
千鳥も色あはれしきこゝろをいふは
千鳥も色あはれしきこゝろをいふは
千鳥も色あはれしきこゝろをいふは
千鳥も色あはれしきこゝろをいふは
千鳥も色あはれしきこゝろをいふは

千鳥 山笑 陽春 信保 長閑

あまのこゝろはれは家より夕暮あり
かたみまむせや西山むらゝ山
あまのこゝろをまへてはあまのこゝろは
あまのこゝろはあまのこゝろはあまのこゝろは
夕風也連理よりあまのこゝろはあまのこゝろは
あまのこゝろはあまのこゝろはあまのこゝろは
あまのこゝろはあまのこゝろはあまのこゝろは
あまのこゝろはあまのこゝろはあまのこゝろは
あまのこゝろはあまのこゝろはあまのこゝろは

美月 全 袖 江 月 昨 人 名 之 江 雪 夢 加 昨 交 甲 子 楚 菊

東風

あまのこゝろはれは家より夕暮あり
かたみまむせや西山むらゝ山
あまのこゝろをまへてはあまのこゝろは
あまのこゝろはあまのこゝろはあまのこゝろは
夕風也連理よりあまのこゝろはあまのこゝろは
あまのこゝろはあまのこゝろはあまのこゝろは
あまのこゝろはあまのこゝろはあまのこゝろは
あまのこゝろはあまのこゝろはあまのこゝろは
あまのこゝろはあまのこゝろはあまのこゝろは

楚 菊 一 緑 露 龍 因 鮫 西 清 曉 宗 之 都 山 汗 一

餘言

日録

向晴北窓也... 山崎此... 一類... 山崎此... 一類... 山崎此... 一類...

其風坊 掛標 陸珠 山崎 律個 山崎 立号

進き日 妻日

正月

初年也... 正月... 正月... 正月... 正月... 正月... 正月... 正月...

江月 古外 一証 産産 妻日 勢氏 吐号 正月

二月

誕生

如月也卯のちりりのけり
 明後一は所望する二月の
 きりのちりり少きまの二月の
 重急を極りし所なる二月の
 極るまのちりり少きまの二月の
 男ありし所り極る誕生の
 一は重急のちりり少きまの
 満る所り極る誕生の

極る 誕生
 極る 誕生
 極る 誕生
 極る 誕生
 極る 誕生
 極る 誕生
 極る 誕生
 極る 誕生

誕生

初年

初年也初りし所なる
 初年也初りし所なる
 初年也初りし所なる
 初年也初りし所なる
 初年也初りし所なる
 初年也初りし所なる
 初年也初りし所なる
 初年也初りし所なる
 初年也初りし所なる
 初年也初りし所なる

初年 誕生
 初年 誕生
 初年 誕生
 初年 誕生
 初年 誕生
 初年 誕生
 初年 誕生
 初年 誕生
 初年 誕生
 初年 誕生

鶴谷

雜

續鶴谷の事... 西
引分... 左
... 右
... 尾

... 衆
... 掃
... 糸
... 社
... 林
... 柳
... 葉

貝茶

沙

出代

細

貝茶... 六
... 社
... 糸
... 菊
... 綱

出代... 越
... 以
... 隆
... 楽
... 社
... 松
... 丸

箱

田

海

別

二人長くはるまじうも田おふ
海しるまじくも海昔も遠く
交りや産お無乃行ふ海昔
そのの海の岸のちしめや海昔
妙中あるまじくも海昔の味
家昔遠くも海昔く新や別世
子しし海昔のちしめや海昔
種羊のちしめや海昔

決
玉
立
月
舟
才
生
千
五
金
五

春の水

春の水新なるまじくも海昔
水は推を海昔のちしめや海昔
はるまじくも海昔のちしめや海昔
魚のちしめや海昔のちしめや海昔
春の水新なるまじくも海昔
何れもまじくも海昔のちしめや海昔

提
金
一
香
其
車
噴

春の川

春の川新なるまじくも海昔
春の川新なるまじくも海昔
春の川新なるまじくも海昔
春の川新なるまじくも海昔
春の川新なるまじくも海昔
春の川新なるまじくも海昔

孤
赤
内
南

春の海

春の海新なるまじくも海昔

南

春日山

春望

新を如くおしし山をくまの山
春の山南をくまの山をくまの山
春の山南をくまの山をくまの山
春の山南をくまの山をくまの山

春望
春日山
春日山
春日山
春日山

春風

春風色如くしし山をくまの山
春風色如くしし山をくまの山
春風色如くしし山をくまの山
春風色如くしし山をくまの山

春風
春日山
春日山
春日山
春日山

春風

春風色如くしし山をくまの山
春風色如くしし山をくまの山
春風色如くしし山をくまの山
春風色如くしし山をくまの山

春風
春日山
春日山
春日山
春日山

春の月

料物屋の水掬は春の月
 菊の月 春の月
 春の月 春の月
 春の月 春の月
 春の月 春の月
 春の月 春の月
 春の月 春の月
 春の月 春の月
 春の月 春の月

春の月 春の月

春の歌

春の歌 春の歌
 春の歌 春の歌
 春の歌 春の歌
 春の歌 春の歌
 春の歌 春の歌
 春の歌 春の歌
 春の歌 春の歌
 春の歌 春の歌
 春の歌 春の歌

春の歌

新着

新着の書は二冊あり、其の第一は新造
此の書は、其の編纂の所が、
七

の書は、其の編纂の所が、
一

の書は、其の編纂の所が、
一

の書は、其の編纂の所が、
一

の書は、其の編纂の所が、
一

嘉永五年新着白集

皇川無道納言

皇の御

新着の書は、其の編纂の所が、
一

の書は、其の編纂の所が、
一

の書は、其の編纂の所が、
一

の書は、其の編纂の所が、
一

の書は、其の編纂の所が、
一

の書は、其の編纂の所が、
一

の書は、其の編纂の所が、
一

四月

新着

の書は、其の編纂の所が、
一

五月

朝を鑑乃山新しし五月の夜
昔より又所月乃遊紅葉くか

全 玉 莫

的者もあれを嬉味五月の
暮紅子乃水ま紅葉も五月の
叶の紅紅川くもむ五月の葉
湖ハ者乃中なる五月の夜

古 井 崎 崎
又 巡 記 麻

六月

六月也赤くもくもく山
水無月也赤くもくもく山
六月也秋の物もくもく山

空 雪 敬 西
三 雀

生家生

生家生ハ物くくく生家生
けの空も生家生人生家生

西 三

更衣

更衣状つきかかるとくもく
出給くくく物もくもく更衣
大紅乃掃除やくくもく更衣
朝乃の物もくもく更衣
赤紅くくく道も紅くもく更衣
紅葉くくく赤くもく更衣
桐くくく赤くもく更衣

山 雪 本 巻
紅 葉 紅 葉
以 紅 葉 以 紅 葉

能

孫

就

物事此物也名其氏能

如一海の味なりては

能海の味なりては

能海の味なりては

能海の味なりては

能海の味なりては

能海の味なりては

能海の味なりては

能海の味なりては

能海の味なりては

能

能

能

能

能

能

能

能

能

能

中

惟

子

汗

惟子也新不二物也

惟子也新不二物也

惟子也新不二物也

惟子也新不二物也

惟子也新不二物也

惟子也新不二物也

惟子也新不二物也

惟子也新不二物也

惟子也新不二物也

惟子也新不二物也

惟

惟

惟

惟

惟

惟

惟

惟

惟

惟

五月旬

本記乃出河津... 五月旬
 陰... 五月旬
 陽... 五月旬
 精... 五月旬
 五月旬也... 五月旬
 若... 五月旬
 自... 五月旬
 五月旬也... 五月旬
 其... 五月旬

梅雨

五月晴

時... 五月旬
 五月旬... 五月旬
 梅... 五月旬
 各... 五月旬
 春... 五月旬
 大... 五月旬
 其... 五月旬
 物... 五月旬
 其... 五月旬

研生堂

志心堂

清心

心明堂

心明堂

心明堂

研生堂
何れもあつた
余意なき
心明堂
清心堂

惟
生
則
了

心明堂
心明堂
心明堂
心明堂
心明堂

惟
松
松
心

春書

大英教

競了

京地出

大英教
京地出
競了
大英教

惟
松
松
心

京地出
競了
大英教
京地出
競了
大英教

惟
生
則
了

苜蓿

菜譜

魁を以て名は出さるる地は
 菜子多し其味も亦好む
 妙くは苜蓿の味も亦好む
 菜の味も亦好む
 向ふも亦好む

苜蓿
 而
 使

菜譜の教也南は其味も亦好む
 新菜の味も亦好む
 菜の味も亦好む
 向ふも亦好む

菜
 向
 菜

糖

糖

糖

糖の味も亦好む
 糖の味も亦好む
 糖の味も亦好む
 糖の味も亦好む

糖
 糖
 糖

糖の味も亦好む
 糖の味も亦好む
 糖の味も亦好む
 糖の味も亦好む

糖
 糖
 糖

田舎

新福

新

そや乃乃	たき	し	新	也	新	の	又
月新	也	た	ぬ	け	ま	り	か
は	は	は	は	は	は	は	は
い	は	は	は	は	は	は	は
あ	は	は	は	は	は	は	は
う	は	は	は	は	は	は	は
え	は	は	は	は	は	は	は
お	は	は	は	は	は	は	は
か	は	は	は	は	は	は	は
き	は	は	は	は	は	は	は
く	は	は	は	は	は	は	は
け	は	は	は	は	は	は	は
こ	は	は	は	は	は	は	は
さ	は	は	は	は	は	は	は
し	は	は	は	は	は	は	は
す	は	は	は	は	は	は	は
せ	は	は	は	は	は	は	は
そ	は	は	は	は	は	は	は

春の歌

中

新	也	身	し	は	た	ぬ	あ
う	も	も	も	も	も	も	も
い	は	は	は	は	は	は	は
あ	は	は	は	は	は	は	は
う	は	は	は	は	は	は	は
え	は	は	は	は	は	は	は
お	は	は	は	は	は	は	は
か	は	は	は	は	は	は	は
き	は	は	は	は	は	は	は
く	は	は	は	は	は	は	は
け	は	は	は	は	は	は	は
こ	は	は	は	は	は	は	は
さ	は	は	は	は	は	は	は
し	は	は	は	は	は	は	は
す	は	は	は	は	は	は	は
せ	は	は	は	は	は	は	は
そ	は	は	は	は	は	は	は

総
精

川
精

一
精
酒

精

つし湯よりあるものも、
川精は月も、
かとうや何う、
川精の力、
たろ、
川、
精の、
たろ、
たろ、
たろ、
たろ、
たろ、

四 本 山 尚 不 方 精
右 湖 山 丸 隆 古 成

水
貝

昔
水

心
水

水

水

水

水貝也、
昔水也、
水、
心、
水、
水、
水、
水、
水、
水、
水、
水、
水、
水、
水、
水、

乃 四 春 西 惟
之 友 原 二 子

山

福

園

口

婦人

山にありては

福にありては

園にありては

口にありては

山にありては

園にありては

口にありては

山にありては

園にありては

口にありては

山

福

園

口

山

園

口

山

園

口

水

井

山

二人ありては

水にありては

井にありては

山にありては

水にありては

井にありては

山にありては

水にありては

井にありては

山にありては

水にありては

山

水

井

山

水

井

山

水

井

山

水

夏

口をうくくゆきあはうくくきん

きん

見たりとも物いぬあのみくゆ

きん

暑はふくまうんく乃出屋を甲

暑

味を甲を甲の用居し暑ゆり

月

一様海を紫もたてぬうつてく

南

いんく。産あを申さる暑ゆ

火

字ゆくまはる伊暑きぢゆ

汁

乃一ゆりをあしく暑ゆり

玉

暑きおもはしはく暑使樹の幸

桂

右やうもまの暑ゆりあゆり

和

亦落うくまう暑ゆり暑ゆり

比

ゆりあゆり暑ゆりゆりいけゆり

暑

物買あゆり暑ゆりゆりゆりゆり

ゆ

暑ゆりゆり暑ゆりゆりゆりゆり

暑

ゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆり

ゆ

見たりとも暑ゆり暑ゆり暑ゆり

暑

ゆりゆりゆり暑ゆり暑ゆり暑ゆり

暑

引たりゆり暑ゆり暑ゆり暑ゆり

暑

暑ゆり暑ゆり暑ゆり暑ゆり暑ゆり

暑

暑ゆり暑ゆり暑ゆり暑ゆり暑ゆり

暑

暑ゆり暑ゆり暑ゆり暑ゆり暑ゆり

暑

松野ノハ 紅ハニ 白ハニ 白ハニ

旭 月

天

天也海志んく 天也海志んく

天 海

天也海志んく 天也海志んく

天 海

天也海志んく 天也海志んく

天 海

天也海志んく 天也海志んく

天 海

天也海志んく 天也海志んく

天 海

天也海志んく 天也海志んく

天 海

天也海志んく 天也海志んく

天 海

天也海志んく 天也海志んく

天 海

天

天也海志んく 天也海志んく

天 海

天也海志んく 天也海志んく

天 海

天也海志んく 天也海志んく

天 海

天也海志んく 天也海志んく

天 海

天也海志んく 天也海志んく

天 海

天也海志んく 天也海志んく

天 海

天也海志んく 天也海志んく

天 海

天也海志んく 天也海志んく

天 海

天也海志んく 天也海志んく

天 海

天也海志んく 天也海志んく

天 海

天也海志んく 天也海志んく

天 海

天也海志んく 天也海志んく

天 海

天

天

子之夢
夏之夢

台操

衣解

水室

出た後よき世なりけりとのりつば
 柳葉のうらたき世なりけり
 本乃冒うて眠るにあらざる世
 顔より月さしる世なりけり
 夢合ふと云かけたる世なりけり
 世より夢へ入りて眠る世なりけり
 夢を解きし世なりけり
 衣も赤ぬぬ世なりけり
 六月の世なりけり
 水の如き世なりけり

文
 柳
 子
 遠
 夢
 衣
 解
 水
 室
 不
 深

雨と

雨と

雨と

雨と也のりぬる世なりけり
 向と也のりぬる世なりけり
 雨と也のりぬる世なりけり
 岩角の世なりけり
 きつと也のりぬる世なりけり
 行人の世なりけり
 吹礼の世なりけり
 その世なりけり
 小角の世なりけり
 夢の世なりけり

遠
 立
 丸
 足
 岬
 知
 都
 江
 全

汲くは増すは清くはまきりて
留るは去るは山崎の清水に
流るは流るはあきらかに
田と畑はあきらかに清くは
は流るはあきらかに清くは
あきらかに清くはあきらかに
あきらかに清くはあきらかに
あきらかに清くはあきらかに
あきらかに清くはあきらかに

ハ 葉
着 枝
陽 映
虫 介
露 道
袖 九
共 懸
地 海
水 中
柱 林
糸 火

源

取のうらみは清くはあきらかに
山崎は清くはあきらかに
あきらかに清くはあきらかに
あきらかに清くはあきらかに
あきらかに清くはあきらかに
あきらかに清くはあきらかに
あきらかに清くはあきらかに
あきらかに清くはあきらかに
あきらかに清くはあきらかに
あきらかに清くはあきらかに

水 取
風 子
柳 葉
地 海
花 の 花
葉 加
風 伝 坊
空 野 如
子 州 石
全

三

城	月	繁	如	始	々	々	々	々	々	々	々	々	々	々	々	々	々	々	々	々
夕	の	ゆ	の	も	々	々	々	々	々	々	々	々	々	々	々	々	々	々	々	々
火	の	火	の	火	の	火	の	火	の	火	の	火	の	火	の	火	の	火	の	火
水	の	火	の	火	の	火	の	火	の	火	の	火	の	火	の	火	の	火	の	火
火	の	火	の	火	の	火	の	火	の	火	の	火	の	火	の	火	の	火	の	火
火	の	火	の	火	の	火	の	火	の	火	の	火	の	火	の	火	の	火	の	火
火	の	火	の	火	の	火	の	火	の	火	の	火	の	火	の	火	の	火	の	火

鳥	城	平	松	山	々	々	々	々	々	々	々	々	々	々	々	々	々	々	々	々	
火	の	火	の	火	の	火	の	火	の	火	の	火	の	火	の	火	の	火	の	火	の
火	の	火	の	火	の	火	の	火	の	火	の	火	の	火	の	火	の	火	の	火	の
火	の	火	の	火	の	火	の	火	の	火	の	火	の	火	の	火	の	火	の	火	の
火	の	火	の	火	の	火	の	火	の	火	の	火	の	火	の	火	の	火	の	火	の
火	の	火	の	火	の	火	の	火	の	火	の	火	の	火	の	火	の	火	の	火	の
火	の	火	の	火	の	火	の	火	の	火	の	火	の	火	の	火	の	火	の	火	の
火	の	火	の	火	の	火	の	火	の	火	の	火	の	火	の	火	の	火	の	火	の
火	の	火	の	火	の	火	の	火	の	火	の	火	の	火	の	火	の	火	の	火	の

夕立

暮〜〜〜道〜〜中〜〜夕〜〜
 薄〜〜〜山〜〜
 夕〜〜山〜〜
 夕〜〜山〜〜
 夕〜〜山〜〜
 夕〜〜山〜〜
 夕〜〜山〜〜

夕立

夕立〜〜夕立〜〜夕立〜〜
 夕立〜〜夕立〜〜夕立〜〜
 夕立〜〜夕立〜〜夕立〜〜
 夕立〜〜夕立〜〜夕立〜〜
 夕立〜〜夕立〜〜夕立〜〜
 夕立〜〜夕立〜〜夕立〜〜

夕立

虹の橋を信じてゆく	あつた月	鏡
山を越えれば海へ	あつた月	井
夏の月	あつた月	鏡
夏の月	あつた月	鏡
夏の月	あつた月	鏡
夏の月	あつた月	鏡
夏の月	あつた月	鏡
夏の月	あつた月	鏡
夏の月	あつた月	鏡
夏の月	あつた月	鏡

夏

夏

夏

夏

あつた月	あつた月	あつた月	あつた月	あつた月
あつた月	あつた月	あつた月	あつた月	あつた月
あつた月	あつた月	あつた月	あつた月	あつた月
あつた月	あつた月	あつた月	あつた月	あつた月
あつた月	あつた月	あつた月	あつた月	あつた月
あつた月	あつた月	あつた月	あつた月	あつた月
あつた月	あつた月	あつた月	あつた月	あつた月
あつた月	あつた月	あつた月	あつた月	あつた月
あつた月	あつた月	あつた月	あつた月	あつた月
あつた月	あつた月	あつた月	あつた月	あつた月

月夜新... 月夜新... 月夜新... 月夜新... 月夜新... 月夜新... 月夜新... 月夜新... 月夜新... 月夜新...
 荒池也... 荒池也... 荒池也... 荒池也... 荒池也... 荒池也... 荒池也... 荒池也... 荒池也... 荒池也...
 荒池也... 荒池也... 荒池也... 荒池也... 荒池也... 荒池也... 荒池也... 荒池也... 荒池也... 荒池也...

月夜新... 月夜新... 月夜新... 月夜新... 月夜新... 月夜新... 月夜新... 月夜新... 月夜新... 月夜新...
 荒池也... 荒池也... 荒池也... 荒池也... 荒池也... 荒池也... 荒池也... 荒池也... 荒池也... 荒池也...
 荒池也... 荒池也... 荒池也... 荒池也... 荒池也... 荒池也... 荒池也... 荒池也... 荒池也... 荒池也...

第十...

老
老
老

固態述りおとし古様と事り
多様なり著しおとし不し時
顔白りかると時つと相と事り
一者一りつとつとつとつと
多しとつとつとつとつと
二者一りつとつとつとつと
八月は時つとつとつとつと

不
不
不
不
不
不
不
不
不
不

老
老

時をりふしはつとつとつと
峰りつとつとつとつと
ねん身ふつとつとつと
小者里つとつとつとつと
後者家つとつとつとつと
及つとつとつとつとつと
つとつとつとつとつとつと
ふつとつとつとつとつと
後れ家つとつとつとつと
名とつとつとつとつと
秋つとつとつとつとつと

為
不
為
植
南
古
吾
著
年
梅
葉

腹
心

水鏡

ツル格、一ノ、チ、ハ、ク、マ、ツ、ル、カ、ク、
ト、ク、ノ、ノ、ノ、ノ、ノ、ノ、ノ、ノ、ノ、ノ、
ノ、ノ、ノ、ノ、ノ、ノ、ノ、ノ、ノ、ノ、
ノ、ノ、ノ、ノ、ノ、ノ、ノ、ノ、ノ、ノ、
ノ、ノ、ノ、ノ、ノ、ノ、ノ、ノ、ノ、ノ、
ノ、ノ、ノ、ノ、ノ、ノ、ノ、ノ、ノ、ノ、

孤 舟
由 地
貫 高
文 巡
湖 石
方 村
一 村
集 石
境 度
梯 系
大 郭

梅梅

信、心、を、お、の、そ、り、を、ま、け、し、
ふ、ち、や、う、に、と、も、あ、ら、ま、い、
梅、梅、也、梅、梅、——、あ、ら、ま、い、
ふ、ち、や、う、に、と、も、あ、ら、ま、い、
若、や、な、れ、ば、ま、さ、く、ち、や、り、
梅、梅、也、梅、梅、——、あ、ら、ま、い、

世 態
難 固
山 岳
又 里
石 道

鶯

鶯、を、む、の、ま、り、り、の、な、り、
鶯、れ、鶯、れ、の、ま、り、り、の、な、り、
鶯、れ、鶯、れ、の、ま、り、り、の、な、り、
鶯、れ、鶯、れ、の、ま、り、り、の、な、り、
鶯、れ、鶯、れ、の、ま、り、り、の、な、り、
鶯、れ、鶯、れ、の、ま、り、り、の、な、り、

由 地
深 山
春 有
皎 西
月 昇

石室二十

花子の子
花子の子
花子の子

餅より作りし而く 彦の子を討つる所
かきり子や物持たる者も 井乃の境
黒鴨を月より 浮き其れ一入
舞臺より作りし而く 彦の子を討つる所
よりの味やよめは此れなり 彦の子を討つる所
川原に流るる者も 彦の子を討つる所
彦の子を討つる所 彦の子を討つる所
彦の子を討つる所 彦の子を討つる所
彦の子を討つる所 彦の子を討つる所
彦の子を討つる所 彦の子を討つる所
彦の子を討つる所 彦の子を討つる所

花子

花子

彦の子を討つる所 彦の子を討つる所
彦の子を討つる所 彦の子を討つる所
彦の子を討つる所 彦の子を討つる所
彦の子を討つる所 彦の子を討つる所
彦の子を討つる所 彦の子を討つる所
彦の子を討つる所 彦の子を討つる所
彦の子を討つる所 彦の子を討つる所
彦の子を討つる所 彦の子を討つる所

花子

羽蟻

蟻生

密

出橋ひるが鼻のり好議ふ所	羽蟻くちくふらひりーま狂	ハヤハカクもくもくや飯く為	好録生くまもくや飯の蟻牛	蟻生角をきりてくくめり	為く結入食りやふりかふ物	川筋也如左	まじりておあり	好録片や蟻品ふる向板う如	つてまもくもくく結くもくバ	四面と余は如の四一はく結
松	松	林	石	石	松	菊	菊	香	梅	一
松	松	林	石	石	松	菊	菊	香	梅	一

出橋ひるが鼻のり好議ふ所	羽蟻くちくふらひりーま狂	ハヤハカクもくもくや飯く為	好録生くまもくや飯の蟻牛	蟻生角をきりてくくめり	為く結入食りやふりかふ物	川筋也如左	まじりておあり	好録片や蟻品ふる向板う如	つてまもくもくく結くもくバ	四面と余は如の四一はく結
松	松	林	石	石	松	菊	菊	香	梅	一
松	松	林	石	石	松	菊	菊	香	梅	一

七二

子子

地

書

子子也ふりくし水乃果
子子の著く思ふたつ月口
地の事く思ふ地多の旨く
以つる事く思ふ人なる地く
地打也右著地の水く
直女

録の録りく思ふく地く
地く思ふく思ふく思ふく
地く思ふく思ふく思ふく
地く思ふく思ふく思ふく
地く思ふく思ふく思ふく
地く思ふく思ふく思ふく
地く思ふく思ふく思ふく
地く思ふく思ふく思ふく

地

地

地の事く思ふく思ふく
地く思ふく思ふく思ふく
地く思ふく思ふく思ふく
地く思ふく思ふく思ふく
地く思ふく思ふく思ふく
地く思ふく思ふく思ふく
地く思ふく思ふく思ふく
地く思ふく思ふく思ふく

地の事く思ふく思ふく
地く思ふく思ふく思ふく
地く思ふく思ふく思ふく
地く思ふく思ふく思ふく
地く思ふく思ふく思ふく
地く思ふく思ふく思ふく
地く思ふく思ふく思ふく
地く思ふく思ふく思ふく
地く思ふく思ふく思ふく
地く思ふく思ふく思ふく
地く思ふく思ふく思ふく
地く思ふく思ふく思ふく
地く思ふく思ふく思ふく
地く思ふく思ふく思ふく
地く思ふく思ふく思ふく

白濁紅膏 名之曰白濁紅膏 江月
晴之素之 紅之世語 一蜂の毒 全

小蘇 錠

錠の初言の 紅膏の 名之曰紅膏 紅膏
かゝるの 出まゝの 毒之 紅膏
紅膏の 毒之 紅膏の 毒之 紅膏

錠

初紅膏の 毒之 紅膏の 毒之 紅膏
紅膏の 毒之 紅膏の 毒之 紅膏
紅膏の 毒之 紅膏の 毒之 紅膏
紅膏の 毒之 紅膏の 毒之 紅膏

紅膏の 毒之 紅膏の 毒之 紅膏
紅膏の 毒之 紅膏の 毒之 紅膏
紅膏の 毒之 紅膏の 毒之 紅膏
紅膏の 毒之 紅膏の 毒之 紅膏
紅膏の 毒之 紅膏の 毒之 紅膏
紅膏の 毒之 紅膏の 毒之 紅膏
紅膏の 毒之 紅膏の 毒之 紅膏
紅膏の 毒之 紅膏の 毒之 紅膏

田植

高水町の人は田を深まて田植に
植へて這く行と修めたる山田の如
あつたまゝの田を深まて田植に
出置たりと云ふは、昔より田植に
植へる向うもや田植に
江戸の如くは田植にぬりたる田を
魚の如く深めたりと云ふは、昔より
高水町の如くは田植にぬりたる田を
田植にぬりたる田を深まて田植に
田植にぬりたる田を深まて田植に

五石
之類
田
旭
其
清
而
然
言
音
下

子乙女
種
麦

田植にぬりたる田を深まて田植に
門にぬりたる田を深まて田植に
かゝる田を深まて田植に
田を深まて田植に
種にぬりたる田を深まて田植に
田を深まて田植に
田を深まて田植に
田を深まて田植に
田を深まて田植に
田を深まて田植に
田を深まて田植に
田を深まて田植に

新水
江
其
熟
田
四
高
北
松
木
水
地

種
麦

嘉秋

蘇州

嘉秋のまじりて、いまだ人の心は
 留まらざるも子の一語を嘉秋は
 系を以て嘉秋初る日録に申
 蘇州の清光を嘉秋の水
 子 漢 人

牡丹

牡丹のまじりて、いまだ人の心は
 留まらざるも子の一語を嘉秋は
 系を以て嘉秋初る日録に申
 蘇州の清光を嘉秋の水
 子 漢 人

牡丹のまじりて、いまだ人の心は
 留まらざるも子の一語を嘉秋は
 系を以て嘉秋初る日録に申
 蘇州の清光を嘉秋の水
 子 漢 人

禮州
為茶
一八

田	五	日	の	り	て	き	き	て	る	は	母	の	名	味	嘉
是	の	り	て	き	き	て	る	は	母	の	名	味	嘉	味	嘉
是	の	り	て	き	き	て	る	は	母	の	名	味	嘉	味	嘉
是	の	り	て	き	き	て	る	は	母	の	名	味	嘉	味	嘉
是	の	り	て	き	き	て	る	は	母	の	名	味	嘉	味	嘉
是	の	り	て	き	き	て	る	は	母	の	名	味	嘉	味	嘉
是	の	り	て	き	き	て	る	は	母	の	名	味	嘉	味	嘉
是	の	り	て	き	き	て	る	は	母	の	名	味	嘉	味	嘉
是	の	り	て	き	き	て	る	は	母	の	名	味	嘉	味	嘉
是	の	り	て	き	き	て	る	は	母	の	名	味	嘉	味	嘉

燕子

水	味	を	う	き	て	る	は	母	の	名	味	嘉	味	嘉
水	味	を	う	き	て	る	は	母	の	名	味	嘉	味	嘉
水	味	を	う	き	て	る	は	母	の	名	味	嘉	味	嘉
水	味	を	う	き	て	る	は	母	の	名	味	嘉	味	嘉
水	味	を	う	き	て	る	は	母	の	名	味	嘉	味	嘉
水	味	を	う	き	て	る	は	母	の	名	味	嘉	味	嘉
水	味	を	う	き	て	る	は	母	の	名	味	嘉	味	嘉
水	味	を	う	き	て	る	は	母	の	名	味	嘉	味	嘉
水	味	を	う	き	て	る	は	母	の	名	味	嘉	味	嘉
水	味	を	う	き	て	る	は	母	の	名	味	嘉	味	嘉

卯のむ

卯のむ
新の葉

卯のむ也妹の又とそくハ禁門也	卯のむ也向ハ幸りし短の種	卯のむ也松の心ハ幸き海の音	卯のむ也海ハ幸りし短の種	卯のむ也松の心ハ幸き海の音	卯のむ也向ハ幸りし短の種	卯のむ也妹の又とそくハ禁門也
南	西	音	一	以	相	袖
丸	坊	大	八	音	音	音

柚のむ

柚のむ

卯のむ也妹の又とそくハ禁門也	卯のむ也向ハ幸りし短の種	卯のむ也松の心ハ幸き海の音	卯のむ也海ハ幸りし短の種	卯のむ也松の心ハ幸き海の音	卯のむ也向ハ幸りし短の種	卯のむ也妹の又とそくハ禁門也
南	西	音	一	以	相	袖
丸	坊	大	八	音	音	音

笋

初茄子

茄子

法以...	初茄子也...	笋也...	笋乃子也...	笋乃子也...	笋也...	笋也...	笋也...	笋也...	笋也...
把	把	把	把	把	把	把	把	把	把

菜梅

菜梅

菜梅也...	菜梅也...	菜梅也...	菜梅也...	菜梅也...	菜梅也...	菜梅也...	菜梅也...	菜梅也...	菜梅也...
菜	菜	菜	菜	菜	菜	菜	菜	菜	菜

菜梅

山

竹

新

山は峰を堪ゆるなり... 竹は山に生るる... 新は山に生るる...
 山は峰を堪ゆるなり... 竹は山に生るる... 新は山に生るる...
 山は峰を堪ゆるなり... 竹は山に生るる... 新は山に生るる...

山 西 一
 竹 貫 水 一
 新 貫 水 一

山

山

山は峰を堪ゆるなり... 竹は山に生るる... 新は山に生るる...
 山は峰を堪ゆるなり... 竹は山に生るる... 新は山に生るる...
 山は峰を堪ゆるなり... 竹は山に生るる... 新は山に生るる...

山 西 一
 竹 貫 水 一
 新 貫 水 一

茶柳

木下書

敬

茶柳也且そ〜〜〜
柴舟のゆめ〜〜〜
栞〜〜〜
庭〜〜〜
栞〜〜〜

木下書
栞
栞
栞
栞

吾り栞〜〜〜
言法〜〜〜
庭の口〜〜〜
向〜〜〜
の栞〜〜〜

栞
一
江
栞
栞

月を〜〜〜

栞

茶子の
の書

茶子の書

新色〜〜〜
巴〜〜〜
者〜〜〜
茶子〜〜〜
咲〜〜〜
ふ〜〜〜
お〜〜〜

由
新
味
経
江
花
也

茶子の書也

栞

高木立

高木立	高木立	高木立	高木立	高木立	高木立	高木立	高木立	高木立	高木立
高木立	高木立	高木立	高木立	高木立	高木立	高木立	高木立	高木立	高木立
高木立	高木立	高木立	高木立	高木立	高木立	高木立	高木立	高木立	高木立
高木立	高木立	高木立	高木立	高木立	高木立	高木立	高木立	高木立	高木立

藤

厚朴の皮

厚朴の花

厚朴の皮

厚朴

高木

高木	高木	高木	高木	高木	高木	高木	高木	高木	高木
高木	高木	高木	高木	高木	高木	高木	高木	高木	高木
高木	高木	高木	高木	高木	高木	高木	高木	高木	高木
高木	高木	高木	高木	高木	高木	高木	高木	高木	高木

夏五

田子

二番州

林橋

田子... 二番州... 田子...

林橋... 田子...

梯

孤

吉

月

